

## 電気・精密機器

### 1. 評価対象企業（23社）

#### 【産業・民生エレクトロニクス部門】（9社）

日立製作所、三菱電機、富士電機（新規）、オムロン、日本電気、富士通、ルネサス エレクトロニクス、パナソニック ホールディングス、ソニーグループ

#### 【電子部品部門】（6社）

ミネベアミツミ、ニデック、TDK、ローム、京セラ、村田製作所

#### 【精密機器部門】（8社）

富士フイルムホールディングス、セイコーエプソン、アドバンテスト、レーザーテック、HOYA、キャノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

### 2. 評価方法

#### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	5	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

#### (2) 評価実施アナリストは73名（所属先31社）である。（氏名等は後掲）

### 3. 評価結果

#### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規に企業を加えたほか、ESG関連を中心に項目数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は74.1点（昨年度76.1点）、総合評価点の標準偏差は6.4点（昨年度6.0点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、産業・民生エレクトロニクス部門（9社）が75.6点（昨年度78.2点）、電子部品部門（6社）が74.0点（昨年度74.4点）、精密機器部門（8社）が72.3点（昨年度75.3点）となった。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（昨年度74%）、**説明会等**が75%（昨年度77%）、**フェア・ディスクロージャー**が85%（昨年度84%）、**ESG関連**が76%（昨年度80%）、**自主的情報開示**が66%（昨年度67%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全14項目のうち、次の**フェア・ディスクロージャー**の項目（a）および**ESG関連**の中の2項目（b）（c）が80%以上の平均得点率となり、高水準であった。

- (a) 「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示が行われましたか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率85%〔昨年度84%〕）（得点率（評価点/配点以下省略）：70%台1社・80%台17社・90%台5社）
- (b) 「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか」（平均得点率83%〔昨年度79%〕）（得点率：60%台1社・70%台1社・80%台18社・90%台3社）
- (c) 「(省略) ESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか」（平均得点率80%〔昨年度82%〕）（得点率：60%台2社・70%台7社・80%台13社・90%台1社）

- ⑤ 一方、次の**ESG関連**の中の1項目（a）および**自主的情報開示**の項目（b）は平均得点率が60%台となり、（a）は全項目中で最も低い水準であった。なお、（a）は本年度の新規項目である。

- (a) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率60%）（得点率：30%台2社・40%台2社・50%台8社・60%台5社・70%台6社）
- (b) 「ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率66%〔昨年度67%〕）（得点率：40%台4社・50%台2社・60%台7社・70%台9社・80%台1社）

## (2) 全体の上位3企業の評価概要

### 第1位 日立製作所（ディスクロージャー優良企業〔2回連続4回目〕、

総合評価点83.0点〔昨年度比-3.0点〕

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（得点率（以下省略）82%）、**ESG関連**（87%）が第1位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（90%）、**自主的情報開示**が第4位（76%）、**説明会等**が同得点第5位（81%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が最も高い評価となった。これに関連して、事業を通じた社会課題改善に向けた取組みと開示を高く評価する声や、ウェブサイトでの開示も充実しているとの声が寄せられた。また、「経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していること」が第5位（昨年度第2位）となった。これに関連して、Investor Dayで経営の方向感を詳細に説明しているとの声が寄せられた一方、経営陣のIR関与が従前より減っている印象との声もあった。「IR部門の機能、基本スタンス」は第4位となった。これに関連して、情報が蓄積されており、数値を交えた質の高いディスカッションができるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が同得点第3位となり、「インタビュー等における開示」も同得点第4位となった。また、「説明会における開示」（2項目）は同得点第6位となった。これらに関連して、補足説明資料の内容や、受注動向、見通し、背景の説明などが充実しているとの声があった。なお、IT、パワーグリッド、半導体装置などコア事業の説明が抽象的であるとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、トップと僅差の同得点第3位となった。これに関

連して、日英両言語でのタイムリーな説明会の開催などの情報提供を評価する声があった。

- ⑤ ESG 関連においては、5 項目のうち 3 項目が最も高い評価（同得点第 1 位を含む。）となった。また、「人的資本に関する項目」が第 2 位、「社外取締役に関する項目」も同得点第 2 位となり、これらの結果、この分野において第 1 位（昨年度第 2 位）となった。これらに関連して、CO2 排出削減貢献量の開示を高く評価する声があったほか、キャピタルアロケーションについては市場のニーズに応じて随時アップデートし説明しているとの声も寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 4 位となった。有益なイベントとして、Investor Day を挙げる声が多く寄せられ、そのほか、海外工場見学会、統合報告書説明会を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第 2 位 富士フイルムホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、 総合評価点 81.1 点〔昨年度比-3.8 点〕、昨年度第 2 位〔-昨年度第 3 位〕）**

- ① 同社は、自主的情報開示が第 1 位（86%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（92%）、ESG 関連が同得点第 3 位（82%）、説明会等が同得点第 5 位（81%）、経営陣の IR 姿勢等が第 8 位（78%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目）が第 7 位となった。これらに関連して、決算説明会への社長の出席、各種事業説明会などの開催を評価する声があったほか、経営陣が ESG を通じた企業価値最大化の重要性をよく認識しており、投資家に積極的に伝達しているとの声も寄せられた。「IR 部門の機能、基本的スタンス」も第 7 位となった。これに関連して、IR 部門に十分な情報が集積され、担当者とは有益なディスカッションができるとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会資料等における開示」が同得点第 3 位となった。また、「インタビュー等における開示」も同得点第 4 位となった。これらに関連して、決算説明資料には、必要かつ十分な情報が網羅されているとの声や、各事業の内訳が示されている点を評価する声があった。なお、情報の詳細について取材が必要な場合があるとの声があった。「説明会における開示」（2 項目）は同得点第 6 位となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、同得点第 1 位となった。これに関連して、ウェブサイトでの開示が充実しており、英語開示も充実しているとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「人的資本に関する項目」が第 3 位、「気候変動問題に関する項目」が同得点第 4 位となり、いずれも 85%以上の得点率であった。これらに関連して、サステナビリティレポートが充実しており、また、理解しやすいように工夫されているとの声や、統合報告書における人材戦略の開示内容が有益であるとの声があった。「社外取締役に関する項目」は第 6 位であった。これに関連し、社外取締役との対話機会の設定を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は最も高い評価となった。有益なイベントとして、バイオ CDMO 事業説明会を挙げる声が多く、そのほか ESG 説明会（デザイン戦略）などの各種事業説明会が挙げられた。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

## **第 3 位 ミネベアミツミ（総合評価点 81.0 点〔昨年度比+0.9 点〕、昨年度第 6 位）**

- ① 同社は、説明会等（83%）、フェア・ディスクロージャー（92%）が同得点第 1 位、ESG 関連が第 2 位（83%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 2 位（81%）、自主的情報開示が第 14 位（64%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本的スタンス」が第 2 位となった。これに関連して、IR

部門は経営全体に関する情報を的確に把握しており、定量数値の開示もハイレベルであるとの声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」(2 項目)は第 5 位となった。これらに関連して、社長や CFO 自らが多くの取材に対応し、細かな点から経営までしっかりと対話ができるとの声があった。

- ③ 説明会等においては、「説明会資料等における開示」が同得点第 1 位となった。これに関連して、補足資料が詳細であるとの声や、説明会だけでも当日に必要な情報を得られるとの声もあった。「インタビュー等における開示」は第 2 位となった。また、「説明会における開示」(2 項目)は同得点第 4 位(昨年度同得点第 2 位)となった。増減益要因を明示して、全社動向の議論もできるように工夫してほしいとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示(メディア対応を含む)に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容(質疑応答を含む)を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 1 位となった。これに関連して、芝浦電子の TOB に関する迅速な開示姿勢を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「社外取締役に関する項目」が最も高い評価となった。これに関連して、社外取締役ミーティングを評価する声があった。「統合報告書に関する項目」も第 2 位となった。これに関連して、統合報告書を最大限活用し、ESG 項目の開示を充実させているとの声があった。「人的資本に関する項目」(同得点第 4 位)および「気候変動問題に関する項目」(第 6 位)は、いずれも 85%以上の得点率であった。これらに関連して、気候変動に関する開示を評価する声のほか、環境貢献の定量化など、ESG 関連項目に関する独自の開示努力を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 14 位(昨年度第 18 位)となった。有益なイベントとして、芝浦電子 TOB 公表時の説明会のほか、フィリピン、カンボジア、タイ工場視察会を挙げる声があった。

(参考) 部門別の第 1 位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

日立製作所(総合評価点 83.0 点、全体第 1 位)

【電子部品部門】

ミネベアミツミ(総合評価点 81.0 点、全体第 3 位)

【精密機器部門】

富士フイルムホールディングス(総合評価点 81.1 点、全体第 2 位)

以 上

# 2025年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス  評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示  評価項目4 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャ-  評価項目1 (配点5点)		4. ESGに関連する 情報の開示  評価項目5 (配点30点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示  評価項目1 (配点10点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6501 日立製作所	83.0	28.7	1	16.1	5	4.5	3	26.1	1	7.6	4	1
2	4901 富士フイルムホールディングス	81.1	27.2	8	16.1	5	4.6	1	24.6	3	8.6	1	2
3	6479 ミネベアミツミ	81.0	28.5	2	16.5	1	4.6	1	25.0	2	6.4	14	6
4	8035 東京エレクトロン	80.6	28.5	2	16.5	1	4.5	3	23.3	10	7.8	3	4
5	6758 ソニーグループ	79.8	27.6	4	16.1	5	4.5	3	24.1	5	7.5	5	5
6	6762 TDK	78.6	26.1	11	16.2	4	4.3	12	24.6	3	7.4	6	10
7	6645 オムロン	77.3	27.6	4	15.3	11	4.4	6	24.1	5	5.9	18	3
8	6981 村田製作所	76.7	26.1	11	16.1	5	4.4	6	23.8	7	6.3	15	7
9	6702 富士通	76.5	27.4	6	14.6	16	4.1	16	23.5	8	6.9	11	11
10	6857 アトバンテクト	76.2	26.5	9	15.2	12	4.4	6	22.7	12	7.4	6	9
11	6503 三菱電機	75.9	25.8	14	15.2	12	4.1	16	23.5	8	7.3	8	14
12	7741 HOYA	75.0	27.4	6	16.5	1	4.4	6	22.2	17	4.5	23	12
13	6594 ニデック	74.4	26.0	13	15.4	10	4.1	16	22.8	11	6.1	16	15
14	6701 日本電気	74.1	26.2	10	14.6	16	4.0	20	22.1	18	7.2	10	16
15	6752 パナソニックホールディングス	73.4	25.0	15	14.7	14	4.0	20	22.4	16	7.3	8	18
16	6504 富士電機	71.8	24.1	19	14.7	14	4.2	14	22.1	18	6.7	12	
17	6724 セイコーエプソン	71.0	24.4	17	14.5	18	4.4	6	22.5	13	5.2	19	16
18	7752 リコー	70.5	24.9	16	13.9	19	4.4	6	22.5	13	4.8	20	8
19	7751 キヤノン	69.5	22.5	21	13.7	21	4.2	14	21.2	21	7.9	2	19
20	6723 ルネサスエレクトロニクス	69.1	24.4	17	15.5	9	4.1	16	19.0	22	6.1	16	13
21	6963 ローム	68.9	23.0	20	13.9	19	4.0	20	21.5	20	6.5	13	21
22	6971 京セラ	64.5	20.7	22	12.4	22	4.3	12	22.5	13	4.6	21	22
23	6920 レーザーテック	54.3	18.5	23	11.1	23	3.7	23	16.4	23	4.6	21	23
	評価対象企業評価平均点	74.05	25.52		14.99		4.27		22.72		6.55		

# 2025年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (産業・民生エレクトロニクス部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6501 日立製作所	83.0	28.7	1	16.1	1	4.5	1	26.1	1	7.6	1	1
2	6758 ソニーグループ	79.8	27.6	2	16.1	1	4.5	1	24.1	2	7.5	2	3
3	6645 オムロン	77.3	27.6	2	15.3	4	4.4	3	24.1	2	5.9	9	2
4	6702 富士通	76.5	27.4	4	14.6	8	4.1	5	23.5	4	6.9	6	4
5	6503 三菱電機	75.9	25.8	6	15.2	5	4.1	5	23.5	4	7.3	3	6
6	6701 日本電気	74.1	26.2	5	14.6	8	4.0	8	22.1	7	7.2	5	7
7	6752 パナソニックホールディングス	73.4	25.0	7	14.7	6	4.0	8	22.4	6	7.3	3	8
8	6504 富士電機	71.8	24.1	9	14.7	6	4.2	4	22.1	7	6.7	7	
9	6723 ルネサスエレクトロニクス	69.1	24.4	8	15.5	3	4.1	5	19.0	9	6.1	8	5
	評価対象企業評価平均点	75.64	26.31		15.19		4.21		22.99		6.94		

# 2025年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（電子部品部門）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ローチャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目1 (配点 5点)	評価項目5 (配点 30点)	評価項目1 (配点 10点)	評価点	順位	評価点	順位	評価点	
1	6479 ミネベアミツミ	81.0	28.5	16.5	4.6	25.0	6.4	25.0	6.4	1	3	1	
2	6762 TDK	78.6	26.1	16.2	4.3	24.6	7.4	24.6	7.4	2	1	3	
3	6981 村田製作所	76.7	26.1	16.1	4.4	23.8	6.3	23.8	6.3	3	4	2	
4	6594 ニデック	74.4	26.0	15.4	4.1	22.8	6.1	22.8	6.1	4	5	4	
5	6963 ローム	68.9	23.0	13.9	4.0	21.5	6.5	21.5	6.5	6	2	5	
6	6971 京セラ	64.5	20.7	12.4	4.3	22.5	4.6	22.5	4.6	5	6	6	
	評価対象企業	74.00	25.06	15.08	4.28	23.36	6.22	23.36	6.22				

# 2025年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (精密機器部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)	評価点	順位	評価項目4 (配点 20点)	評価点	順位	評価項目1 (配点 5点)	評価点	順位	評価項目5 (配点 30点)	
1	4901 富士フイルムホールディングス	81.1	27.2	16.1	3	4.6	1	24.6	8.6	1	1	1	
2	8035 東京エレクトロン	80.6	28.5	16.5	1	4.5	2	23.3	7.8	2	3	2	
3	6857 アドバンテクト	76.2	26.5	15.2	4	4.4	3	22.7	7.4	3	4	4	
4	7741 HOYA	75.0	27.4	16.5	2	4.4	3	22.2	4.5	6	8	5	
5	6724 セイコーエプソン	71.0	24.4	14.5	6	4.4	3	22.5	5.2	4	5	6	
6	7752 リコー	70.5	24.9	13.9	5	4.4	3	22.5	4.8	4	6	3	
7	7751 キヤノン	69.5	22.5	13.7	7	4.2	7	21.2	7.9	7	2	7	
8	6920 レーザーテック	54.3	18.5	11.1	8	3.7	8	16.4	4.6	8	7	9	
	評価対象企業評価平均点	72.28	24.99	14.69		4.33		21.92	6.35				

## 2025年度の具体的評価項目および配点（電気・精密機器）

【評価期間：2024年7月～2025年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（基準：35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていきますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	11
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示が行われましたか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。  【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	5
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか。	6
②ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を定量的・積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか。	6
③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
④社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	6
⑤上記①～④のESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M & A説明会を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間） 【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

電気・精密機器専門部会委員

部会長	佐渡 拓実	大和証券
部会長代理	江澤 厚太	シティグループ証券
	綾田 純也	JPモルガン証券
	峽 洋一郎	ティール・ロウ・プライス・ジャパン
	桂 竜輔	SMBC日興証券
	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	和田木 哲哉	モルガン・スタンレー MUFG証券

評価実施アナリスト（73名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
秋月 学	野村證券	寺師 正俊	モルガン・スタンレー MUFG証券
綾田 純也	JPモルガン証券	徳本 進之介	SMBC日興証券
有沢 正一	岩井コスモ証券	杜 玥	アセットマネジメント One
石田 重和	丸三証券	富井 喜隆	ポリマー・キャピタル・ジャパン
板倉 充知	SOMPOアセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
伊藤 健悟	QUICK	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
井上 昂洋	シティグループ証券	滑川 晃	シュロダー・インベストメント・マネジメント
今津 拓洋	アセットマネジメント One	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
浦 昌平	アムンティ・ジャパン	西平 孝	岡三証券
江澤 厚太	シティグループ証券	西村 美香	岡三証券
大川 淳士	大和証券	根岸 慎太郎	大和アセットマネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
大野 剛	丸三証券	原嶋 悠也	SOMPOアセットマネジメント
大牧 実慶	立花証券	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
岡崎 優	野村證券	藤原 重良	SOMPOアセットマネジメント
岡田 真一	三菱UFJ信託銀行	藤原 毅郎	シティグループ証券
小野 まな実	三菱UFJ信託銀行	堀 雄介	みずほ証券
小野 友嗣	野村アセットマネジメント	堀井 章	ニッセイアセットマネジメント
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	グレアム マクドナルド	シティグループ証券
桂 竜輔	SMBC日興証券	松浦 勇佑	丸三証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	皆川 明伽	丸三証券
上辻 敦生	三菱UFJアセットマネジメント	宮崎 孝志	三井住友トラスト・アセットマネジメント
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
小林 守伸	ニッセイアセットマネジメント	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
斉田 健一	みずほ証券	八木原 謙一	第一生命保険
佐渡 拓実	大和証券	安田 秀樹	東洋証券
鹿内 美欧	JPモルガン証券	山崎 雅也	野村證券
芝野 正紘	シティグループ証券	山崎 みえ	モルガン・スタンレー MUFG証券
銭 洋	三井住友トラスト・アセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
高橋 豊	極東証券経済研究所	山田 幹也	みずほ証券
立田 裕昌	SOMPOアセットマネジメント	山本 真以人	ニッセイアセットマネジメント
田中 健士	みずほ証券	横山 雄一	三菱UFJ信託銀行
田中 秀明	モルガン・スタンレー MUFG証券	吉岡 篤	野村證券
谷林 正行	QUICK	和田木 哲哉	モルガン・スタンレー MUFG証券
竹間 雅子	SOMPOアセットマネジメント	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG証券
坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。